

令和 2 年 5 月 25 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17H00935

研究課題名（和文）1918-19年像の再構築 継続と変容

研究課題名（英文）Reconsidering the Mapping of East-Central Europe after the Great War

研究代表者

大津留 厚（OTSURU, Atsushi）

神戸大学・人文学研究科・名誉教授

研究者番号：10176943

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 21,600,000円

研究成果の概要（和文）：1918年11月、西ヨーロッパ戦線では休戦が実現し、世界戦争の終焉が見通せたが、中東欧では、帝国秩序が崩壊し、そのあとの秩序はまだ形成途上だった。ウィルソンが提唱したセルフディタミネーションが一つの標語として機能したが、さまざまな民族的な集団が入り組んで存在するこの地域では、民族集団間の葛藤は避けられず、軍事的な衝突が引き起こされることもあった。世界大戦とそれに続く戦争が終わった時に、この地域ではハプスブルク帝国のかわりに継承諸国が成立していた。本研究は「セルフディタミネーションによる国家」という概念によって語られてきた歴史に対して、帝国からの遺産の継承を明らかにして新たな歴史像を構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1918 - 19年を分水嶺として、中・東欧地域には民族自決国家が成立し、それまでの「民族の牢獄」は解消されたという理解は「プロバガンダ」としては意味があったかもしれないが、この地域の歴史を理解する上ではむしろ桎梏となっていた。本研究は、この時期をまたいでの連続、非連続を問うことによって、断絶としての1918 - 19年理解を乗り越える方法を示すものである。本研究はその意味で決して網羅的な研究ではないが、新たな視点から見えてくる歴史事象との格闘の記録である。具体的には制度とアイデンティティと記憶（文書と文化財）との視点から連続、非連続を問うた。国際水準に見合った成果を出すことができた。

研究成果の概要（英文）：In November 1918 the armistices signed by belligerent countries stopped the fighting in Western Europe. Even then they failed to pave the way to peaceful solutions in East-Central Europe, where collapse of the Russian, Habsburg, Ottoman, and German Empires necessitated a new map covering this area. Many nationalities were intermingled there, and national self-determination declared by Woodrow Wilson turned out to be a competitive game, which eventually led to armed conflicts. When the World War and the ensuing civil wars ended, the Habsburg Monarchy had been replaced by successor states which prevailed on its soil. Historiography has had difficulty in defining what they succeeded from the Monarchy because its description has been overshadowed by the catchword of national self-determination. Our study project aimed at rebuilding historiography of the contemporary East-Central Europe through revealing what successor states inherited from the Monarchy.

研究分野：東欧近現代史

キーワード：ハプスブルク帝国 中・東欧 民族自決 継承国家 世界大戦

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

1914年7月にハプスブルク帝国がセルビアに対して宣戦を布告して始まった世界戦争は、1918年11月にヨーロッパ戦線で休戦が成立し、1919年にパリで講和条約が結ばれたが、その時すでにこの地域を永く統治していたハプスブルク帝国は姿を消し、そのあとに新生、再編国家が誕生していた。それは、1917年にロシアで起きた革命の側圧を受けながら、この地域に「民族自決」の原理が貫徹したのものとして捉えられてきた。しかしその後の100年のこの地域の経験は、社会主義革命に対しても、「民族自決」に対しても負の評価を下さざるを得ないことを示すことになった。この経験を踏まえて、ハプスブルク帝国の崩壊と新生、再編諸国の成立をもう一度歴史の中に位置付けることが不可避であった。

2. 研究の目的

アーノ・J・メイヤーは、かつて『ウィルソン対レーニン』において、国際的な行動主体を「体制維持派」と「運動派」の対立として捉えた。その時、ウィルソンとレーニンは、お互いに対抗しながら、ともに「運動派」として「体制維持派」に対峙するものとして位置付けられた。ロシア革命にしろ、ハプスブルク帝国の崩壊、中・東欧諸国家の成立にしろ、「運動派」の勝利の現れにほかならず、「未来」はその延長線上に構想されるはずだった。しかしその後のこの地域の歴史は「理念」によって裏切られた歴史だった。

その時に当たって、本研究はもう一度1918-19年の時点に戻って、この地域に住む人々の未来を現実から遊離した理想ではなく、人々の現実の生活から構想しようとするものである。したがって、本研究は世界大戦という過酷な経験をへて、帝国の解体や国境の改変を受けて、人々の生活で何が変わり、何が変わらなかったのか、という視点からこの時代の中・東欧を捉えなおすことを目的にした。

3. 研究の方法

本研究では研究目的を達成するため、研究分担者を「制度の継承と変容」、「アイデンティティの継承と変容」、「記憶と記録」の3班に分けて、研究を進め、それぞれの班の議論を研究代表者が統括するという方法をとった。

「制度の継承と変容」班は、ハプスブルク帝国の崩壊、新生、再編諸国家の成立といういわば外側の枠組みの大きな変化の中で、実際の統治の仕組みの「継承」と「変容」を明らかにしようとするものである。「アイデンティティの継承と変容」班は、新たな国境線の確定で囲い込まれた「国家」に住む人々のアイデンティティの継承と変容を問うものである。人口構成の変化は多数派、少数派の立場を逆転させる場合もあったし、少数派としての有り様が変化する場合もあった。また新たな国家の形成は、国家のアイデンティティとしての新たな歴史認識の形成を求めることになる。「記憶と記録」班は、その意味で新たな「記憶」を作りだす作業が依拠する「文書」の帰属をめぐる問題を追及するものである。

4. 研究成果

ヨーロッパ戦線で停戦が実現した1918年11月、新生チェコスロヴァキア日本代表部のニエメッツ大尉は、日本陸軍に対し、習志野および青野原に収容されている旧ハプスブルク帝国軍のチェコスロヴァキア系捕虜と面会し、新生国家チェコスロヴァキア軍に参加する意思があるかどうか確かめたい旨の要望を示した。これに対して日本陸軍は、ニエメッツ大尉の要望に理解を示しつつも、その場合面接を受けたチェコスロヴァキア系捕虜が同じ旧ハプスブルク帝国軍のドイツ系捕虜および旧ドイツ帝国軍捕虜から圧力を受けることがありうるので、それを避けるため、各収容所長が面接を行い、その結果を外務省を通じてニエメッツ大尉に報告する方がいいのではないか、という立場を取り、実際に各収容所長が面接調査を行った。旧ハプスブルク帝国捕虜の多くが収容されていた兵庫県青野原収容所で行われた調査では、調査対象48人のうち新生国家の軍隊に編成されることを望んだ捕虜は23人、ほぼ半数であった。たくまずして行われた世論調査の新生国家への支持率「50%」という数字は「民族自決」の内実をよく表現していると言える。だからこそこの地域における「継承」と「変容」が問われなければならないのである。

その中で一つの焦点になるのが、それぞれの国家で少数派となるユダヤ人の存在とアイデンティティである。その中で、政治的には熱烈な帝国オーストリアの愛国者であり、文化的にはドイツ文化に帰属するが、エスニックな帰属においてはドイツ人ではなく、ユダヤ人意識を持つウィーンのユダヤ人が考察された。彼らにとっては、多族帝国の崩壊後に成立したドイツ人の国民国家オーストリアが持った意味とその中で生きる集合体としてのユダヤ人社会が抱えた葛藤があった。再編国家としてのユーゴスラヴィアは再編の「核」となったセルビアと旧ハプスブルク帝国南スラヴ系住民との葛藤があった。本研究では、ロシア戦線で捕虜になったハプスブルク帝国の南スラヴの兵士から結成されたセルビア(南スラヴ)義勇軍に注目した。自らの国家建設を目的として結成された義勇軍ではあったが、彼らの願望と新生国家のあり方との間には齟齬が生じることになった。旧ハプスブルク帝国のムスリムも注目する必要がある。ボスニアのエリ

ート集団であるムスリムたちは、帝国崩壊、ユーゴスラヴィア創立の動きが現実のものとなる中で、彼らが「ユーゴスラヴィア」を最終的に選択していくがその複雑なプロセスが解明された。トランシルヴァニアのハンガリー系住民たちも再編ルーマニアに帰属して、彼らのアイデンティティが問われることになった。トランシルヴァニアはかつてハンガリーの歴史的領土を構成する地域のひとつであったが、この地域を拠点としたハンガリー系知識人の間では「侯国」という歴史的経験にもとづく地域的独自性の意識も見られた。そして1940年8月にハンガリーがトランシルヴァニア北部の支配を回復し、この地域の再統合を進めるが、その時に当たって、ハンガリー系知識人たちは地域的独自性とハンガリー民族の一体性との矛盾に悩むことになる。

行政機構などの制度的持続性とそこに現れてくる変容はまずチェコスロヴァキアを対象とする。基本的にハプスブルク帝国の行政制度を引き継ぎながら、新国家を効果的、合理的に運営してゆくために、行政制度を改革していくことが重要な課題となった。しかしその実現のためには従来チェコ人としてのアイデンティティの中核をなしていた「歴史的領邦の自治」という概念に根本的な変化を迫ることになる。少し角度を変えて、帝政期ウィーンでチェコ語で授業をする学校としてあったコメンスキー学校の継続と変容が重要なテーマである。つまりそこに現れるのは原理的には帝政期の「民族は平等である」という理念と共和制オーストリアにおける「少数民族保護」との葛藤であるが、いずれにしても理念のはざまに置かれた学校の教育的実践が問われることになる。また国境画定により生活の変容を迫られる人々の在り方を、国境画定に携わった日本人委員の目から見ることもできた。

新たな国家の形成は、国家のアイデンティティとしての新たな歴史認識の形成を求めることになる。そしてその意味での「記憶」を作りだす作業はその根拠となる「文書」の帰属をめぐる問題となる。歴史文書の保管の在り方にハプスブルク帝国の複合国家としての特徴が凝縮されており、その分割をめぐる議論には、新生国家の過去との向き合い方が投影されることになる。それはまたハプスブルク帝国の「清算」の問題でもあることが明らかにされた。また現在のチェコ共和国北部の工業都市リベレツ(ドイツ名ライヘンベルク)にハプスブルク帝政期に造られた労働者住宅という視点もこの地域の連続と非連続を語る切り口として有効であることが実証された。帝政時代にドイツ系住民が多くを占めたこの地域は、新国家においては「ズデーテン」と呼ばれる地域に当たる。ナチ政権ドイツによる併合、その後のドイツ系住民の追放、社会主義政権を経て、チェコ共和国のEU統合後加速したリベレツの労働者住宅の保全運動をめぐる議論は、「遺産」の帰属の難しさを浮き彫りにしている。

1918 - 19年を分水嶺として、中・東欧地域には民族自決国家が成立し、それまでの「民族の牢獄」は解消されたという理解は「プロパガンダ」としては意味があったかもしれないが、この地域の歴史を理解する上ではむしろ桎梏となっていた。本研究は、この時期をまたいでの連続、非連続を問うことによって、断絶としての1918 - 19年理解を乗り越える方法を示すものである。本研究はその意味で決して網羅的な研究ではないが、新たな視点から見えてくる歴史事象との格闘の記録であり、そこに国際水準との接続がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Nobuhiro Shiba	4. 巻 24
2. 論文標題 Nationalni identitet 'Granicara' srucaj Dusna Todorovica, prodesora ruskog jezika u Tokiju od ranih doba do kraja Prvog svetskog rata	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Godisnjak za drustvenu istoriju	6. 最初と最後の頁 27-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柴 宜弘	4. 巻 4
2. 論文標題 ロシア語教師ドゥシャン・トドロヴィチと第一次世界大戦 辺境地域出身者のナショナル・アイデンティティ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 E-ジャーナル『中欧研究』	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津留厚	4. 巻 12
2. 論文標題 木谷先生との思い出	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ゲシヒテ	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津留厚	4. 巻 21
2. 論文標題 似島から見た世界大戦	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 関西大学西洋史論叢	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上亮	4. 巻 12
2. 論文標題 第一次世界大戦をめぐる開戦責任問題の現在 クリストファー・クラーク『夢遊病者たち』によせて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ゲンヒテ	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上亮	4. 巻 66
2. 論文標題 ヨセフ・レートリヒのみたボスニア・ヘルツェゴヴィナ併合問題 二重制における自治をめぐる	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 スラヴ研究	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野村真理	4. 巻 39-1
2. 論文標題 ミンスクのホロコースト—ユダヤ人抵抗運動の成果と限界 (前篇)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 金沢大学経済論集	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 野村真理	4. 巻 39-2
2. 論文標題 ミンスクのホロコースト—ユダヤ人抵抗運動の成果と限界 (後篇)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 金沢大学経済論集	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 辻河典子	4. 巻 30-1
2. 論文標題 ハンガリーにおける体制転換の公的記憶とその起点：「第三の共和国」をめぐる	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文学・芸術・文化（近畿大学文学部論集）	6. 最初と最後の頁 21-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤雪野	4. 巻 26
2. 論文標題 チェコの日本びいきフロウハと日本のおとぎ話」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際文化研究科論集	6. 最初と最後の頁 55-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田恭子、佐藤雪野	4. 巻 26
2. 論文標題 旧東ドイツ地域・ハレ市における移民・難民統合と教育	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際文化研究科論集	6. 最初と最後の頁 43-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桐生裕子	4. 巻 41
2. 論文標題 任意組織の限界、加入義務制組織の必要：「営農家の職能協同組合」をめぐる 議論にみる世紀転換期ハブ スブルク君主国の国家と社会	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東欧史研究	6. 最初と最後の頁 2-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森下嘉之	4. 巻 60-3
2. 論文標題 「ヒトラーの新秩序」とその後がもたらした地域社会の変容：チェコ工業都市オストラヴァを事例に（1938-1948年）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史と経済	6. 最初と最後の頁 12-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津留厚	4. 巻 9
2. 論文標題 青野原をめぐる地域連携とハプスブルク史研究－15年目の総括－	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 LINK【地域・大学・文化】	6. 最初と最後の頁 49～58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬場優	4. 巻 20
2. 論文標題 オーストリア＝ハンガリーから見たロシア革命	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アリーナ	6. 最初と最後の頁 106～111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柴宜弘	4. 巻 3
2. 論文標題 ロシア語教師ドゥシャン・トトロヴィチと第一次世界大戦－辺境出身者のナショナル・アイデンティティ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 E-ジャーナル 中欧研究	6. 最初と最後の頁 1～25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米岡大輔	4. 巻 40
2. 論文標題 帝国統治への抵抗と順応ーハプスブルクとボスニアのイスラーム	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東欧史研究	6. 最初と最後の頁 138 ~ 147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤雪野	4. 巻 25
2. 論文標題 リヒテンシュタインの国家承認問題と第一次チェコスロヴァキア土地改革	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際文化研究科論集	6. 最初と最後の頁 57 ~ 66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森下嘉之	4. 巻 1
2. 論文標題 第2次世界大戦後チェコ「国境地域」における復興政策をめぐる一考察	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ENSG: Ethnicity, Nation, Society and the Globe	6. 最初と最後の頁 53-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 辻河典子	4. 巻 1
2. 論文標題 地域の独自性を通じた民族的一体性への貢献ー第2次ウィーン裁定後のコロジュヴァールの学術機関を事例に (1940-44)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 エスニック・マイノリティ研究	6. 最初と最後の頁 35 ~ 51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 辻河典子	4. 巻 291
2. 論文標題 現代ハンガリー政治における包摂と排除：ヨッピークの「人民政党」路線をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新しい歴史学のために	6. 最初と最後の頁 18～33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上亮	4. 巻 2017-1
2. 論文標題 Die Annexion von Bosnien-Herzegowina und Istvan Burian	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Prague Papers on the History of International Relations	6. 最初と最後の頁 67～89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯尾唯紀	4. 巻 40
2. 論文標題 書評 福嶋千穂『プレスト教会合同』（群像社、2015年）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東欧史研究	6. 最初と最後の頁 62～66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯尾唯紀	4. 巻 40
2. 論文標題 東欧史における宗派化と世俗化の類型化について（コメント）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東欧史研究	6. 最初と最後の頁 148～152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 村上亮
2. 発表標題 日本＝ハプスブルク植民地関係史 結節点としてのボスニア・ヘルツェゴヴィナ
3. 学会等名 経済史研究会（東京大学大学院経済学研究科）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村上亮
2. 発表標題 ユーゴスラヴィア建国の正統性をめぐって パリ講和会議における戦争責任問題とその余波
3. 学会等名 東欧史研究会シンポジウム「歴史としての「ユーゴスラヴィア」 建国100年の地点から振り返る」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村上亮
2. 発表標題 台湾総督府官僚・市島直治のみたハプスブルクの植民地統治 ポスニア・ヘルツェゴヴィナにおける森林政策を中心に
3. 学会等名 身体・環境史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 辻河典子
2. 発表標題 社会主義東欧をめぐる歴史研究の展望：ハンガリーの事例から
3. 学会等名 日本西洋史学会第68回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuko Kiryu
2. 発表標題 Farmers as New Citizens and Members of the Czech Nation: Agricultural Associations and the Transformation of Local Societies in Rural Bohemia
3. 学会等名 Workshop: Peasants into Citizens, Czech Academy of Sciences (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuko Kiryu
2. 発表標題 Die böhmischen Dörfer während des Ersten Weltkrieges
3. 学会等名 23.Bohemisten-Treffen, Collegium Carolinum (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森下嘉之
2. 発表標題 ポスト社会主義期のチェコにおける集合住宅(パネラーク)の歴史認識
3. 学会等名 エスニック・マイノリティ研究会 国立政治大学(台北)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森下嘉之
2. 発表標題 第二次世界大戦後の中東欧における学知再編と「地域史」の構築 - 「民俗学/歴史学者」ヴァルター・クーンの活動を通して
3. 学会等名 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター客員研究員セミナー
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 ボシティアン・ベルタラニチュ
2. 発表標題 Assessing the role of Japan in the territorial consolidation of Yugoslav state after World War
3. 学会等名 ハプスブルク史研究会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大津留厚
2. 発表標題 Refugees of the Habsburg Monarchy in East Asia
3. 学会等名 ハプスブルク史研究会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 米岡大輔
2. 発表標題 帝国統治への抵抗と順応ーハプスブルクとボスニアのイスラーム
3. 学会等名 東欧史研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米岡大輔
2. 発表標題 合評会 村上亮『ハプスブルクの「植民地」統治』
3. 学会等名 ドイツ現代史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森下嘉之
2. 発表標題 「ヒトラーの新秩序」とその後がもたらした地域社会の変容ーチェコ工業都市オストラヴァを事例に (1938-1948)
3. 学会等名 政治経済学・経済史学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 村上亮
2. 発表標題 ヨゼフ・レートリヒのみたボスニア・ヘルツェゴヴィナ併合問題ー二重制と南スラヴ問題のはざままでー
3. 学会等名 仙台中東欧研究会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Zarko Lazarevic, Nobuhiro Shiba and Kenta Suzuki (eds.)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Institut za novejšo zgodovino, Ljubljana	5. 総ページ数 245
3. 書名 The 20th Century through Historiographies and Textbooks: Chapters from Japan, East Asia, Slovenia and Southeast Europe.	

1. 著者名 柴宜弘ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 360
3. 書名 スロヴェニアを知るための60章	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	柴 理子 (Shiba Riko) (10337769)	城西国際大学・大学共同利用機関等の部局等・准教授 (32519)	
研究分担者	桐生 裕子 (Kiryu Yuko) (10572779)	神戸女学院大学・文学部・准教授 (34510)	
研究分担者	野村 真理 (Nomura Mari) (20164741)	金沢大学・経済学経営学系・教授 (13301)	
研究分担者	家田 修 (Ieda Osamu) (20184369)	早稲田大学・社会科学総合学術院・教授(任期付) (32689)	
研究分担者	篠原 琢 (Shinohara Taku) (20251564)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	佐藤 雪野 (Sato Yukino) (40226014)	東北大学・国際文化研究科・准教授 (11301)	
研究分担者	馬場 優 (Baba Masaru) (40449533)	福岡女子大学・国際文理学部・准教授 (27103)	
研究分担者	柴 宜弘 (Shiba Nobuhiro) (50187390)	城西国際大学・国際人文学部・教授 (32519)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	辻河 典子 (Tujikawa Noriko) (50724738)	近畿大学・文芸学部・講師 (34419)	
研究分担者	森下 嘉之 (Morishita Yoshiyuki) (60589042)	茨城大学・人文社会科学部・准教授 (12101)	
研究分担者	飯尾 唯紀 (Iio Tadaki) (80431352)	東海大学・文化社会学部・准教授 (32644)	
研究分担者	村上 亮 (Murakami Ryo) (80721422)	福山大学・人間文化学部・講師 (35409)	
研究分担者	ボシティアン ベルタラニチュ (Bertalanic Bostjan) (80752120)	城西大学・現代政策学部・准教授 (32403)	
研究分担者	米岡 大輔 (Yoneoka Daisuke) (90736901)	中京大学・国際教養学部・准教授 (33908)	